

## 資料

## エイズに関する意識調査

葛西 健\*<sup>1</sup> 吉田 朗\*<sup>2</sup> 多田 祥三\*<sup>2</sup>

エイズを防ぐには正しい知識を身につけることで偏見をすて、自ら守ることが大切であるとされている。しかしながら住民のエイズ知識と意識に関する調査は少ない。そこで今回、一般住民50人を対象に21問からなるエイズの意識調査を実施した。エイズの知識に関する質問結果では、献血やキス、輸血による感染の有無に関する質問での正答率がそれぞれ54%、58%、30%と低く逆にほとんどの人が手や吊革などでは感染しないと回答し、一方98%の人がエイズは恐いと回答していた。また72%の人がエイズ患者のかかっている病院や歯科医院には行きたくないという回答しているが、58%の人がエイズ患者は一般の人と一緒に生活をすべきでないと思うかとの問に対し、思わないと回答しており、回答者の複雑な心理が窺われる結果となった。また知識と意識との間に明かな相関は認められなかった。今回の調査で正しい知識を持っていてもエイズに対して不安を感じていることが明らかになった事から、今後は健康教育等啓蒙活動を展開する際には偏見を取り除くことの重要性を訴えると同時に、様々な工夫により不安感を取り除くことを年頭に実施することが大切であると考えた。

## I はじめに

現在エイズは、感染者の急激な広がりからエイズ爆発といわれている。しかしながら、エイズが世界ではじめて報告されたのは、1981年であり、その病気の歴史は僅か10年である。その10年の間にもさまざまなことが解明された。エイズはその原因がHIVというウイルスであること、免疫能を著しく低下させること、そしてこの病気が決して、同性愛者や麻薬中毒者などの一部の人のだけの病気ではなく、どのような人もかかり得る病気であることも明らかになった。したがってこの病気を防ぐには、エイズに関して偏見をすて、正しい知識を持ち自ら予防するよう心掛けることが大切である。そのため、一般の住民のエイズに関する知識と意識を調査することが、今後の対策を立てる上でも重要である。そこで今回一次調査として江刺市の一般住民50人にエイズの意識調査を実施したのでその結果を報告する。

## II 対象・方法

江刺市において開催されたエイズ講演会に集まった聴衆50人に対し、講演会に先だって、21問からなる調査票による自記式調査を実施した。

性別は男性32%女性60%であり、年齢分布は、20歳代が4.3%、30歳代が21.7%、40歳代が21.7%、50歳代が17.4%、60歳代が34.7%となっている。

職業に関しては、農業26%、主婦26%、会社員14%、公務員12%、無職6%、団体職員4%、不明12%となっている。

## III 結果

## 1 エイズの知識に関する質問

質問項目中エイズ知識について表1に示した。正当率はそれぞれ、エイズの人と手をつなぐとエイズがうつると思いますか、88%、同性愛者でないとエイズに感染しないと思いますか、68%、献血するとエイズに感染する可能性があると思いますか、54%バスの吊革や手すりから感染する可能

\*<sup>1</sup>岩手県宮古保健所\*<sup>2</sup>岩手県環境保健部

性があると思いますか、94%、キスでエイズに感染すると思いますか、58%、よく知っている相手との酒のまわしのみで感染すると思いますか、84%、咳やくしゃみなどを介してうつると思いますか、86%、エイズウイルスは蚊で感染すると思いますか、68%、輸血を受けるとエイズに感染する危険性があると思いますか、30%となっていた。

表1

エイズの人と手をつなぐとエイズがうつると思いますか	うつる…30%	うつらない…88%
同性愛者でないでエイズに感染しないと思いますか	思う…30%	思わない…68%
献血するとエイズに感染する可能性があると思いますか	思う…40%	思わない…54%
バスの吊革や手すりから感染する可能性があると思いますか	思う…6%	思わない…94%
キスでエイズ感染すると思いますか	思う…42%	思わない…58%
よく知っている相手と酒のまわしのみで感染すると思いますか	思う…16%	思わない…84%
咳やくしゃみなどを介してうつると思いますか	思う…14%	思わない…86%
エイズウイルスは蚊で感染すると思いますか	思う…26%	思わない68%
輸血を受けるとエイズに感染する危険性があると思いますか	思う…64%	思わない…30%

2 エイズに関する知識

エイズの意識に関する項目について表2に示した。82%の人がエイズは予防できると答えたが、エイズは怖いと思いますかとの問いに対しては、非常に恐いと答えた人があわせて98%であった。

またエイズは社会に被害をもたらすと思いますかとの問いに対して、全体の88%の人が何らかの被害を及ぼすと回答した。

エイズの予防に関してエイズ予防にコンドームは効果的であると思いますかとの問いに対して、2%の人が効果がないと回答した。また無回答の人が6%見られた。

エイズ患者あるいはエイズ感染者のかかっている病院や歯科医院には行きたくないと考えているが、エイズ感染者は一般の人たちと一緒に社会生活をするべきでないと思いますかとの問いに対して、62%の人が思わないと回答している。

また肉親がエイズに感染してもあなたは一緒にくらすと思いますかとの問いに対しては、62%の人が思うと答えており一方でまた、44%の人が親しい友人等がエイズに感染したら、それまでと同じようにつき合うことができないと回答している。

今後のエイズの動向に関しては将来もっと広がると思いますかとの問いに対しては、92%の人が広がると答え、エイズに関する情報に関してはテレビ、新聞、雑誌等でエイズに関する報道を見たことがありますかとの問いに対して、54%の人が何回も見たことがあると回答し、28%の人が見たことがないと回答している。逆に8%の人が見たことがないと回答している。

表2

エイズは予防できるか	できる…82%	できない…14%
エイズは怖い	非常に恐い…56%	恐い…42%
	恐くない…2%	
エイズは社会に被害をもたらすと思いますか	非常に大きな被害をもたらす…54%	
	大きな被害をもたらす…22%	
	被害をもたらす…12%	
	全く被害をもたらさない…10%	
エイズ予防にコンドームが効果的であると思いますか	非常に効果的…46%	効果的…46%
	効果がない…2%	
エイズ患者のかかっている病院や歯科医院にいきたくないと思いますか	思う…72%	思わない22%
エイズ感染者は一般の人達と一緒に社会生活をするべきではないと思いますか	思う…36%	思わない58%
エイズ感染者は、会社を解雇されても仕方がない		

と思いますか

思う…30% 思わない…52%

親兄弟等、あなたの肉親がエイズに感染しても、あなたは一緒にくらすと思いますか

思う…62% 思わない…34%

親しい友人がエイズに感染しても、それまでと同じようにつき合うことができると思いますか

できると思う…44% 思わない…44%

無回答…12%

エイズは将来もっと広がると思いますか

思う…92% 思わない4%

テレビ、新聞、雑誌等でエイズに関する報道を見たことがありますか

何回も見たことがある…54%

見たことがある…28%

見たことがない…8%

将来におけるエイズウイルスの感染リスクでは、特に指定をせずに自由に答えてもらったが、0.01%から90%の範囲の回答があり全体の平均では22.3%となった。また無回答のものが30%あった。

また、年齢、性別、職業に関する分散分析を実施したが、特に有意な相関が見られなかった。

#### IV 考 察

昨今エイズに関する論文は、予防から治療に至るまでさまざま見受けられる。しかしながら、その予防方法において、健康教育の重要がさげられている<sup>1)2)</sup>にもかかわらず、その対象となる一般住民の知識と意識に関する調査は少ない、エイズに対する恐怖を見ると、アメリカ人の大学生を対象とした研究では知識の高さがエイズに対する恐怖を低減するとしているが<sup>3)</sup>、エイズ予防の可否に対する結果およびエイズの知識に関する正答率との関係を見ると有意の差は認められなかった。したがって、今回の調査においては、知識を有するが故に、逆にエイズは予防はできない、あるいは非常に恐怖であると回答した人がいることになる。

エイズの知識に関する問題では献血するとエイ

ズに感染する可能性があると思いますか、キスでエイズに感染すると思いますか、輸血を受けるとエイズに感染すると思いますかとの問題に対する正答率が低く、逆にほとんどの人がエイズは手と手をつないでも感染しないことを知識として有している結果となった。

エイズの知識に関する問題では複雑な心理を反映してか回答もばらつきが見受けられた。エイズ感染者は一般の人達と一緒に生活するべきでないと思うか、エイズ感染者は会社を解雇されても仕方がないと思うかとの2問に対しては、思わないと回答した人が半数を越えていたのに対し、実際に主体的立場に容易に立たされる問題、エイズ患者のかかっている病院や歯科医院にはいきたくないと思うか、親しい友人がエイズに感染してもそれまでと同じようにつき合うことができるかとの問に対しては、いわゆる偏見からうまれると予想された回答結果になった。また一方で親兄弟等肉親がエイズに感染しても一緒に暮らすと回答した人が62%あった。また知識の問題に対する正当率との関係を見ると、エイズ感染者は一般の人達と一緒に生活するべきでないと思うかとの問いに対し、思うと回答した群と思わないと回答した群では、思わないと回答した群のほうが有意に正当率が高い結果となった。エイズ感染者は会社を解雇されても仕方がないと思うかとの問に対して有意の差はないものの、思わないと回答した群に正当率の高い傾向が見られた。エイズ患者のかかっている病院や歯科医院にいきたくないと思うか、親しい友人がエイズに感染してもそれまでと同じようにつき合うことができるか、親兄弟等肉親がエイズに感染してもあなたは一緒に暮らすと思いますかとの問と正答率の間にはなんら傾向も見受けられなかった。このことから、回答者の複雑な心理が窺しれる結果となった。

エイズ感染者は、その病気のもつ恐怖として、現在のところ不治の病であるという死への恐怖と、もう一つ誤解と偏見のなせる対社会的な不安の二つを抱えることになる。前者に対しては、現在世界中でその研究が進んでいるが、後者に対しては

正しい知識を身につけることによってそれを排除していくことが大切である。そのことが結果的に、正しい知識を持ってリスクな行動を避けるというプリミティブな予防活動効果<sup>9)</sup>のみでなく、キャリアの発掘や感染者が安心して生活し感染させないという効果をもたらすことになると考える。

今回の調査で、正しい知識を持ってしてもまだまだ不安を感じることが明らかになった。したがって今後は、健康教育等啓蒙活動を展開する際には偏見を取り除くことの重要性を訴えると同時に、科学的データを示したり、実際にエイズ感染者と共存しているといっても過言ではないアメリカの実例を示すなど、不安感を取り除くことを念頭に実施することが大切であると考えられる。

#### V 結 語

エイズに関するアンケートを一般住民50人を対象に実施した。その結果、エイズに関する知識を有していても不安を感じていることが明らかになった。

最後になりましたがこの調査にご協力いただきました江刺市住民の方および江刺市保健課の方々に感謝申し上げます。

#### 参考文献

- 1) Darrow WW: Behavioral research and AIDS prevention, Science 239, 4847-1477, 1485, 1988.
- 2) Institute of Medicine & National Academy of Sciences: Comfrotng AIDS: Directions for Public Health Care and Research, Washington D C, National Pres, 1986.
- 3) 日本大学生のエイズキャンペーンポスターに対する評価とエイズに関する態度の比較研究, (財)エイズ予防財団報告書, 1990.
- 4) Potts M, Anderson R, Boliy C: Slowing the spread of human immunodeficiency virus in developing countries, Lancet, 338, 608-613, 1991.
- 5) Crane SF, Carswell JW: A review and assessment of non-governmental organization-based STD/AIDS education and prevention projects for marginalized groups, Health Educ Res Theory Pract, 7, 175-194, 1992.

著者への連絡先:

〒027 宮古市五月町1-20

宮古保健所

Tel 0193-64-2218

葛西 健